

# 日本近世生活絵引

## 奄美・沖縄編

### 目次

まえがき	i
凡例	iv

## I 琉球交易港図屏風

1 全体図	2
2 落平・御物城	4
3 垣花・屋良座森城	6
4 帰国する進貢船	8
5 進貢船（帰唐船）	10
6 唐船	12
7 接貢船	14
8 ハーリー（船漕ぎ競漕）	16
9 三重城	18
10 迎恩亭	20
11 渡地	22
12 西の海	24
13 波の上・若狭	26
14 瀧原	28
15 崇元寺	30
16 泊村	32
17 首里城	34
参考図版Ⅰ	36
参考図版Ⅱ	42
参考図版Ⅲ	48
参考地図	56

## II 八重山蔵元絵師画稿

18 士族と平民1	60
19 士族と平民2	62
20 男と女1	64
21 男と女2	65
22 稲蒔り	66
23 稲束運搬	68
24 貢納と稲叢	70
25 俵の運搬と収納	72
26 遊びと生業	74
27 生業	76

28	機織り	78
29	公布調	80
30	出舟・入舟	82
31	仏壇	84
32	綱引き	86
33	道踊り	88
34	南風島	90
35	棒と獅子	91
36	大和商人	92
37	異国人1	94
38	異国人2	96
39	異国人3	97

### III 琉球寫真景

40	(1) 名瀬の風景1 (第1図・全体)	100
40	(2) 名瀬の風景2 (第1図・部分)	102
41	(1) 爬竜船競漕1 (第2図・全体)	104
41	(2) 爬竜船競漕2 (第2図・部分)	106
42	芭蕉山 (第3図・全体)	108
43	名音の集落 (第4図・全体)	110
44	(1) キビ刈りと製糖1 (第5図・全体)	112
44	(2) キビ刈りと製糖2 (第5図・部分)	114
45	(1) 八月踊り1 (第6図・全体)	116
45	(2) 八月踊り2 (第6図・部分)	118
46	(1) 仕事帰りの人々1 (第7図・全体)	120
46	(2) 仕事帰りの人々2 (第7図・部分)	122
47	(1) 宇検の風景1 (第8図・全体)	124
47	(2) 宇検の風景2 (第8図・部分)	126
48	(1) 種付け豚と女たち1 (第9図・全体)	128
48	(2) 種付け豚と女たち2 (第9図・部分)	130
49	(1) 大和相撲1 (第10図・全体)	132
49	(2) 大和相撲2 (第10図・部分)	134
50	名瀬湾の立神 (第11図・全体)	136
	参考地図	138

### 解題と考察

I	「琉球交易港図屏風」考 (渡辺 美季)	143
II	「八重山蔵元絵師画稿」考 (得能 壽美)	169
III	「琉球寫真景」考 (川野 和昭)	183

	参考文献目録	195
	索引	199

## 凡 例

---

- 1 本書は『日本近世生活絵引』の第4巻である。
- 2 本書はⅠ「琉球交易港図屏風」(浦添市美術館蔵)、Ⅱ「八重山蔵元絵師画稿」(石垣市立八重山博物館蔵)、Ⅲ「琉球寫真景」(名護博物館蔵)から、それぞれ17、22、11の場面を選択し、主題を示すタイトルを付け、描かれた事物・行為に番号を振り、それらを表現する「一般名詞」・「現地方言」を付した。また、場面全体の概要を読み取った解説文を付した。
- 3 各絵図の画像は、Ⅰは浦添市美術館所蔵のポジフィルム、Ⅱは『八重山蔵元絵師画稿集』(カラー複製版)[石垣市立八重山博物館1985]、Ⅲは東京大学史料編纂所所蔵のポジフィルムより作成した。
- 4 各画像は、原図より適宜切り取って作成した。各図は拡大・縮小されており、原図の大きさとは一致しない。
- 5 各画像内の事物・行為に付した番号は、基本的に左から右へ、もしくは上から下へと付けた。
- 6 行為を示す語彙には番号に□を付けた。「現地方言」は聞き取りや文献により、明確に判明したもののみ付した。
- 7 描かれた事物・行為に付けた語は、概ね以下の基準に従った。
  - (1) 原則として事物単体および個別行為に名称を付けた。
  - (2) 名称は現在の日本語を基本とし、必要に応じて現地方言をカタカナで併記した。
  - (3) 推測・想像による語彙の付与はできるだけ避け、内容判別の難しい事物・行為は解説文で説明した。
  - (4) ある程度判明しつつ、確定に至らなかった事物・行為には「?」を付けた。
  - (5) 一般名詞と区別しづらい固有名詞には、「」を付けた。
  - (6) 地名は〈地名〉と併記した。
  - (7) 画像内に書かれた文字にはアルファベットを付け、判読した。
- 8 本書の編纂は共同研究の方式で行われ、研究参加者全員で検討した。各場面の解説文は、執筆者名を文末に括弧書きで記載した。
- 9 「解題と考察」は、各執筆者が本書編纂(共同研究)の過程で得た知見に基づき執筆した。
- 10 巻末に、本書の編纂のため参考とした文献を、参考文献目録として収録した。また本書において参考文献を典拠として用いる際には[編著者+西暦]で表記した。
- 11 巻末には、絵引の事物・行為に付した語彙の五十音順索引を付した。